

学校教育目標	学びあい 認めあい 支えあい 夢をはぐくむ あいざわっ子 【知】自ら考え 学び続ける子を育てます 【徳】自分も 周りの人も 大切にすることを育てます 【体】進んで 健康的な生活をする子を育てます 【公】自分の役割を考えて 行動する子を育てます 【開】目標に向かって ねばり強く取り組む子を育てます			
	創立 59 周年 児童生徒数: 293 人	学校長 泉 太郎 主な関係校: 東野中学校 二つ橋小学校	副校長 小林 才子	2 学期制 一般学級: 12 個別支援学級: 4

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	東野中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
【主体的に、協働的に社会を生きぬく力】 自分づくりに関する力 持続可能な社会の創造に貢献する力	東野中学校 相沢小学校 二つ橋小学校	自己有用感や自立心をもち、夢や目標に向かって、主体的・協働的に社会を生きぬこうとする子ども ○部活動体験や行事を通じた児童、生徒の交流 ○小中合同授業研究会における中学校教員と小学校教員との交流 ○小中連絡会の定期的開催による情報共有と一貫した児童生徒指導の実践

中期取組目標	学校教育目標実現のために、「誰一人取り残すことなく、誰もが安心して学び、生活できる学校づくり」を目指します。
	○職員が主体的に学校運営に参画し、互いに連携・協働し合える学校組織を推進します。 ○一人ひとりの子どもが、主体的で探求的な学びを進められるように、子どもたちと共有しながら教師が学習環境をデザインし、日々の授業改善に努めます。 ○社会性や多様性を共有し、誰もが安心して生活できるように児童支援体制を整え、特別支援教育、国際教育を充実していきます。 ○小中一貫推進ブロックや地域、家庭と連携、共有し、信頼される学校づくりに努めます。

重点取組分野		具体的取組
知	授業改善	①昨年度に引き続き、家庭学習の習慣化と学力向上を目指し、教職員と保護者で共通理解を図って取り組むようにする。デジタルドリルの活用など、子どもの実態に合わせて、家庭学習の内容や出し方も考えていく。②振り返りの視点を具体化して示し、自己変容への「気付き」がある振り返りを、どの教科でもできるようにする。このことに対する教員の意識も高まるよう、定期的に確認する機会をもつ。
	担当 学力向上	
徳	道徳教育	①昨年度に引き続き、道徳科の授業を授業参観で年1回は行う。年間計画も道徳科の授業と行事との兼ね合いを考え、内容についての振り返りを行う。 ②人権学習の取り組みも、前年度のことや教科との関わりを考えて計画的に行い、継続的かつつながりを意識した人権学習を行う。
	担当 心の教育	
体	健康教育	①子どもたち自身が心身の健康に関心を持ち、日常的にストレッチなどを取り入れ、継続的に行っていけるよう全校に呼びかけていく。②昨年度に引き続き、運動する楽しさを味わうために、教師主導の活動も、委員会主導の活動も行う。その際にしっかりと見通しをもち、余裕をもって取り組めるように計画していく。
	担当 体育部	
公 開	自分作り教育 (キャリア教育)	①話し合い活動の充実を図る。学級会を計画的に行うために、話し合いの流れを学校全体で共有したり、授業公開をすることで職員がイメージをもてるようにする。②年間活動例を参照しながら、計画的にピアサポートを進められるようにする。③自分づくりパスポートの形式を定着させる。学期末だけでなく、様々な場面で自分の生活を振り返ることができるように活用をしていく。また、呼びかけていく。
	担当 心の教育・特活部	
いじめへの対応		①いじめの未然防止に向けて学年、専任、管理職と情報を共有し、チームとして解決する。年間の計画にYPを位置付けてアセスメントを行い、日々の児童指導・理解に役立てていく。②事案が発生した時にはチーム、学校としての動きを明確にして対応していく。③教師、学年、学校として児童指導・支援力を高める。
担当	児童理解・特別支援	
人材育成・ 組織運営(働き方)		①「学級経営」を軸に進めていく。各教科ごとに研究している先生方に教授してもらいながら、学びを深めていく。模擬授業や実技研などの実践的な活動を通して、子どもの気持ちに寄り添った授業ができるようにする。 ②授業公開を改めて周知するのではなく、いつ参観してもよいという気持ちで授業をする。区研や市研で学んだことは、必要に応じて校内へ発信する。組織運営や学年運営の仕方など、ミドルならではの悩み情報を共有していく。引き続きメンターの希望に応じて寄り添い関わっていく。
担当	メンター・ミドル	
特別支援教育 児童生徒指導		①年度初めの共有で相沢スピリッツについて共通理解を深める。年間を通してスピリッツの必要項目について検討する。②個別支援学級、スキルアップ教室、国際教室を中心に個に寄り添った支援を実現する。また指導に実際に共有する。③特別支援Coのチームの運営や仕組みを新しく考えていく。
担当	児童理解・特別支援	
多文化共生		①在籍学年担当・外国語補助指導員・母語ボラ・やさ日ボラ・地域の居場所や学習場所のスタッフと連携しながら、児童や保護者の安心につながる指導・支援をする。②多文化理解、多文化共生を目指すために、国際教室(母国など)の紹介動画を作る。研修や日頃の指導の中で、母語の重要性、日本語での声かけの大切さなどを教職員にはたらきかけていく。
担当	国際	
担当		b9
担当		b10